



Title	懷徳堂記事
Author(s)	
Citation	懷徳. 1934, 12, p. 45-48
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88915
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

叶はぬ事のよしだ。

當時かうした通名か、戯姓名かが用ゐられてゐる事に興味が繋がるのである。

三上氏の厚意で大寺餅が幾鉢も運ばれた。幼稚園で「あんころもち」を戴くのは、何かゆかりがある様に思へる。

園児達の干し忘れられた粘土細工に興味を誘はれながらも、塔から羽音を響かせながら鳩の群に、明るい笑みを湛へてゐられる中村先生のお顔と別れた。

懷德堂記事

▲懷德堂遺物寄贈 昭和八年九月二十三日中井木菟麻呂氏より懷德堂甲種遺物として左の四十

七点を寄贈せらる。

學問所建立記錄	懷德堂定約附記	懷德堂內事記
同 外事記	學校公務記錄	懷德堂義金簿
御同志中相談覺	三宅幸藏變宅ニ付御同志中懸合覺	
逸史獻上記錄	義金助成金簿	助成金書類
竹山先生遺狀	懷德書院揭示	學問所建立文書(上)
同 (下)	學校再建文書	大阪學校書類
學校公務書類	衙尹御入諸書	學問所來歷
懷德堂記額面	白鹿洞揭示墨本額面	曲肱榭額面
己有園額榻本	懷德堂講堂楣上小障宋六君子圖	
懷德堂壁書三面	入德門聯	懷德堂講堂障子歸馬放牛圖
懷德堂繪圖屏風	石菴書懷德堂幅	朱文公大書四訓墨本
洌菴先生雙幅	竹山先生咏福壽草詩幅	
寒泉先生出懷德堂歌	懷德堂考定中庸	中庸錯簡說
懷德堂記帖	勢語通	蘭洲先生刪正日本書記
蘭洲先生遺本康熙字典	萬年先生論孟首章講義	
懷德堂本大日本史	菊章刀子	木司令
螺鈿額匣		

▲記念祭典 昭和八年十月七日記念祭典を執行し、終つて文學博士松本文三郎先生の「支那に於ける印度音譯字の二三に就て」と題する講演あり（該速記は本誌に收む）

▲村山評議員 同八年十一月二十四日評議員村山龍平氏（朝日新聞社長）逝去せらる、

▲中橋評議員 同九年三月二十五日評議員中橋徳五郎氏逝去せらる、

▲文科講義 大正十二年四月以來開講の文科講義は都合に依り昭和九年三月三十日限り其の名を廢し、定日講義とす。

▲武藤長平氏 同九年四月一日廣島高等師範學校講師武藤長平氏に常任講師を囑託す。

▲鄭滿洲國務總理大臣 滿洲帝國國務總理大臣鄭孝胥氏は、四月十四日午前十一時十分來堂

視察後、出迎へたる聽講生のために、左記の如き一場の講演を試み、陳列の懷德堂舊記、逸史七經逢原等を觀覽、同十一時五十分辭去さる。

この度御當地に參りましたのが、ちやうど三度になります。七年前にこちらに參りました時も、小倉先生の御斡旋で、この懷德堂に參りましたことがございます。この度參りまして、又是非この懷德堂を觀せていたゞきたいと思ひまして、罷出ましたやうな次第であります。

懷德堂と申します懷德の二字は、論語の「君子懷德」といふ言葉から出たものと拜察致します。「君子懷德、小人懷土」斯ういふ言葉が論語にあります。誠にその通りであると思ふのであります。只今の世の中は、法律で總てを律するやうになりまして、君子も小人も一律に法律

で律して行くといふやうな時代であると思ひますが、これは果して適したる制度かどうか、自分は疑ひなき能はないのであります。君子は徳を以て行ひますので、この君子に對して小人に適するやうな法律を以て抑へて行くやうなことは、あまり望ましくないと、自分は常々考へて居ります。近代の科學の思想から生れました法律は、どうも百事總てを小人扱ひにして居るやうに思ひます。これではならない。君子人に對しては君子人を待遇すべき所の法律を、別に定めるといふことがあつて然りと思ふのであります。王道即ち徳を修めるといふことは、君子を律するの道である。これによつて世の中を向上し進めて行きますならば、今のやうな法律萬能主義の世の中にはならないと考へて居ります。

日頃私はさういふことを考へて居ります。今の法律制度などは宜しく何等かの形式に於て、改革をせねばならんといふことを、考へて居る者でございます。

滿洲國が建國致しまして、王道を以て國家の根本方針と致して居ります。従つてその趣旨は、只今申しました所の、人民を小人として待遇せず、君子として待遇する所にあるのであります。總ての人を君子の所まで向上せしめる國家と致しましては、只今申上げましたやうな法律といふものを、今少しく改めて、君子人に對する法律規則とすることあります。只今はまだまだ小人が多いかも知れませんが、この小人をして君子人とならしめる徳化、これが王道主義の秘訣であります。各方面總ての人が、君子人とな

ることによつて、眞の王道樂土の完成といふものが期せられるのであります。

懷徳の二字に思ひあはせまして、日頃自分の抱いて居ります所懷の一端を述べて、皆さんの御清聴を煩はしました次第であります。

(藤塚誠二速記)

▲北平清華大學學生 中華民國北平清華大學々生三十名は特に本堂所藏の楚辭百種閲覽のため四月十九日午前十時半錢稻孫教授に引率され來堂、大講堂に於て閲覽の後記念撮影をなし正午辭去せり。

▲王揖唐氏 中華民國河北政務委員王揖唐氏は高野山に於ける弘法大師千百年遠忌に參列の序を以て五月三十日午後四時來堂、視察の後、出

迎の聽講生のため、儒學に關する一場の講演をなし午後五時大阪俱樂部に於ける小倉理事長の招宴に臨めり。

▲勝本評議員 六月九日評議員勝本忠兵衛氏逝去せらる。

▲内藤博士 本堂顧問文學博士内藤虎次郎先生六月二十六日逝去せらる。

本會記事

▲昭和八年十月七日 恒祭

會員一同恒祭に奉仕、祭典後の宴會に、本會を代表して幹事數名招待を受く。會誌第十一號を刊行す。